

EX 1929 Doc 8284

答、私ガ初メテ大摩田第十七收容所ニ到着セシ時
最初ノ一通問許リハ吾々ハ大シテ迷惑モ受ケ
マセシタ、其後殆ンド毎日ノ様ニ三人又
ハ四人ノ俘虜ガ監視所ニ連行サレテ拷問及ビ
殴打ヲ受ケマシタ。日本人ハ吾々が充分ニ
歩調練ヲ爲サズ且ツ「敬禮」ト云フ號令ニ應
ジテ禮ヲ爲スコトヲ怠ツタト主張シテ居リマ
シタ。監視所ニ於テ俘虜ハ約二時ノ太サノ竹
棒ノ上ニ膝ヲ曲ゲテ坐ルコトヲ強要サレ何時
間モ其ノ儘ニ置カレマシタ。私自身モ一度五
時間ニ亘ツテ同様ノ目ニ遭ヒ竹ノ棒ハ私ノ皮
膚及ビ膝ニ喰ヒ込ミテ凹痕ヲ殘シ眞直ニ歩行
出來ル様ニナツタノハ數日後ノ事デアリマシ
タ。一歐洲人ハ前ノ冬其様ナ姿勢デ跪カサレ
タガ爲メニ彼ノ足ハ凍傷ニ罹リ「踝」ノ上カ
ラ兩足共切断スルノ余儀デキニ至リマシタ。
猶、私ハ約六時ノ幅、一時半ノ厚サノ野球ノ
打球棒程ノ長サノ棍棒デ殴打サレマシタ。
是ハ千九百四十四年八月又ハ九月頃私ガ監視
所ニ居リシ時起ツタ事デアリマス。私ハ多ク
ノ他ノ人々が殆ンド毎日同様ナ目ニ處セラレ
タノヲ見マシタ。私ガ其處ニ初メテ行ツタ時
ノ收容所ノ所長ハ瓜生中尉^{ロロロ}デアリマシタガ

EX 1929 Doc 8284

答、私ガ初メテ大卒田第十七收容所ニ到着セシ歸
最初ノ一通問許リハ吾々ハ大シテ迷惑モ受ケ
マセンデシタ、其後殆ンド毎日ノ様ニ三人又
ハ四人ノ俘虜ガ監視所ニ連行サレテ拷問及ビ
毆打ヲ受ケマシタ。日本人ハ吾々が充分ニ爲
歩調練ヲ爲サズ且ツ「敬禮」ト云フ號令ニ應
ジテ禮ヲ爲スコトヲ怠ツタト主張シテ居リマ
シタ。監視所ニ於テ俘虜ハ約二時ノ太サノ竹
棒ノ上ニ膝ヲ曲ゲテ坐ルコトヲ強要サレ何時
間モ其ノ儘ニ置カレマシタ。私自身モ一度五
時間ニ亘ツテ同様ノ目ニ通ヒ竹ノ棒ハ私ノ皮
膚及ビ膝ニ喰ヒ込ミテ凹痕ヲ残シ眞直ニ歩行
出來ル様ニナツタノハ獄日後ノ事デアリマシ
タ。一澳洲人ハ前ノ冬其様ナ委勞デ腕カサレ
タガ爲メニ彼ノ足ハ凍傷ニ罹リ「隙」ノ上カ
ラ兩足共切斷スルノ余儀ナキニ至リマシタ。
猶、私ハ約六時ノ幅、一時半ノ厚サノ野球ノ
打球棒程ノ長サノ棍棒デ毆打サレマシタ。
是ハ千九百四十四年八月又ハ九月頃私ガ監視
所ニ居リシ時起ツタ事デアリマス。私ハ多ク
ノ他ノ人々が殆ンド毎日同様ナ目ニ處セラレ
タノヲ見マシタ。私ガ其處ニ初メテ行ツタ時
ノ收容所ノ所長ハ瓜生中尉デアリマシタガ

Doc 8284

2.

一年後ニ交代セシ後繼者ノ氏名ハ記憶致シマ
セン。收容所ノ通譯ノ名ハ大井^{OH}デアリマシ
タ。山道ト云フ他ノ軍屬ハ吾々が勤勞シテキ
タ炭鋸ノ通譯デアリマシタ、彼ハ負傷セル或
ハ病メル俘虜ヲ無理ニ簡單ナ仕事ヲサセル爲
ニ炭鋸ニ行カセ彼等ガ爲シ得ザル様ナ仕事ニ
従事セシメ負傷セル腕ト刀筋違ヒセル背ヲ無
理ニ使用サス事ニ由ツテ彼等ヲ苦シメル事ヲ
常ト致シマシタ。彼ハ特種ノナキ普通ノ日本
人デアリ英語ヲ話シマシタ。

猶俘虜ガ殴打サレル場合監視進ハ吾々殘リ
ノ者ニ之ヲ無理ニ見サセ、若シ彼ガ苦痛ノ爲
ニ悲鳴ヲ擧グルナラバ彼等ハ嘲笑スルノヲ常
ト致シマシタ。

私ノ曉ル俘虜等カラ聞イタ所ニ依レバ最後ノ
三ケ月カ四ケ月ノ期間彼等ハ既ル永澤リニ立
タサレ百十ボルトノ電流線ニ屬レシメテ感電
氣絶サセラレタサウデス、吾々ハ此ノ事が行
ハレシ際ニハ彼等ノ叫ビ聲ヲ聞キマシテ同様
ナ處置ニ遭ヒシ一和蘭兵ト^{オランダ}ニ語リマシタ。

時ニハ人々が約四分ノ一時ノ太サ三、四尺
位ノ長サノ銅鐵棒デ毆ラレルノヲ見マシタ。

Doc 8284

3.

／GUSHI／音譯／
「グーシス」ト彼呼バレシ一米人ハ右ノ如キ様
式デ毆打サレマシタ是ハ日本軍ガ隆服シタ
二、三ヶ月前ニ起ツタ事デアリマス、多クノ
人々ハ冬期彼等ガ勞務ニ出掛ケル前冷水ヲ浴
セラレタ爲ニ肺炎ニ罹リマシタ。